

# 時事新報

紙なり

時事新報には毎號詳細なる簡況物價の報告あり

**時事新報定價**  
時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細なる商況物  
價の報告あり其代價は左の如し

は熱誠の上みれを修正して一案となし航海事業に關する建議と改稱して去る七日の議事に付せしに豫て興味の歸向せるもとして直に大多數を以て通過したり建議の要點は航路助成、船舶保護及び海員養成の三項にし

局者の一職を厭るものなり猶ほ其實施の細目に就  
我輩更に議する所ある可し

百十五人即ち其總數に對する  
通じたる者は三千三百十八人  
り千八百八十四年に亘る豫  
備者の中は千三百二十三人

時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細なる商況物價の報告あり其代價は左の如し

て航路助成には特別と普通との二種あり特別とは政府が其航路を指定し有効なる當業者と特別の契約を結び之に相當の助成金と共に其業に從事せしむるものをして云ひ普通とは指定航路以外の外國航海を補助するものにして先づ第一で深州、児島、長崎、佐賀、日向、新潟、福井、

# ○美術學校擴張建議に關する建議案

(土居光華氏外三名提出)

百九の萬と千九百二十三人  
七毛なるも他國語に通じた  
人に達したり又前豫算年度  
百八十三年に亘る年度)の  
を出したる割合の最も強占  
合は二十二点六、

時事新報遞送料		一、日本國內並に朝鮮京京城、仁川、釜山、元山津 一箇月 金 拾三錢	
二	二、南支那利加、中央亞米利加、米國若くは加奈陀 經て郵送する歐洲各國	一箇月	金 六拾錢
三	三、北米合衆國、英領加奈陀、布哇諸島	一箇月	金 六拾錢
四	四、香港を經て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸島、洲	一箇月	金 三拾五錢
五	五、羅領浦羅斯德、清國諸港	一箇月	金 三拾五錢
六、時事新報廣告料(常期)		一箇月 金三拾五錢	

路等を開始し他は漸次財源を量りて着手するなど一定め又船舶保護とは有事の日に際し軍隊の運送若くは海軍の使用に供する目的として新たに造船規定を設け合格の船舶には認め契約を結びて保護金を與ふるを云ひ海員養成とは現今の商船学校を擴張して其分校を幅要の地に設く可しとの計畫なれば前年よりも大に進歩したる議論にして我輩も此大體に就ては頗る同意なれども政府は果して之を採納して設計を立て法案を具して本期議會に協賛を求むるや否やに至ては未だその必然を期す可らず聞く所によれば委員會に於ては政府

獨得の巧妙を貰せられ今一步之を以て適切有用に  
せしむる者あらは必ずや重要な輸出品目たらむび  
も拘らす維新以來獎勵の道頓に毫かり藝術の標準  
て降り爲めに今日に在りては未だ貿易に十分の效  
收むる能はざるは寔に懼むべきの至りとす

東京美術學校は中心模範の制にして乃ち美術教育  
確工藝製作の淵源とも云ふべきなり然るに規模狭隘大に藝術るもの多も故に  
素振はす教育の法猶極大に藝術するもの多も故に  
は宜しく此の際に於て其の規模を大にし其の改良  
の標準としては先づ普通の各科目を具備せしめ時  
必要に適應すべき美術家を養成せんふとを望む固  
目下軍國多事の際十分なる計畫を實行せんふとは  
に望むべき所にあらずと雖國家の富源を開くの基  
て亦一日緩慢に寸ずへからざれよ乃ち財政の往々

合は三分二厘五毛一千八百  
年に亘る年度に於ては七分  
織の基を用  
しりか  
張府事  
紡績會社の火災保険  
擢るもの多く大坂紡績會社  
滿勤續會社の火災あり又此  
の大火灾ありて尋常民家の  
圓と云ふ高に登り其影響忽  
上直接の關係みを有せざれ  
に迄波及するを以て此頃日  
社と取引ある同地の銀行者  
めては効制を注意せしに銀

一月五箇月廿四字附	一日風	一日以上
一 行 ニ 行 十三錢	六 日 在	七 日 以上
	十一 錢	
	十 錢五 錢	
廣告の定價 時事新報の廣告料は都て定價の通り申 る筈なれども取次人の内には往々定價以下にて引 く者ある由今後斯る事實を發見する時は直ちに其 人に暫し本賃廣告の取次と謝絶する事もあるべき に付豫め廣告依頼者諸君に公告す		
本社へ寄稿に付		
京府下ヒ始め各府縣ヒ通眞社なるものありて是よ		

の當局者も毎々出席して計畫の可否得失より實施の方  
法等に至るまで仔細に打解けたる相談を遂げ會議の儀  
式を略したる程にして大抵委員等の意見を著るしき抵  
觸もなかりしと云へば一旦決心の上は咄嗟に法案とな  
すに差支なく又協賛を得るの見込も充分なる可ければ  
我輩は躊躇する所なく事を速にせんと欲する者なれど  
も議院開會の初より内閣にては軍國多費の故を以て一  
切の新費目を延引するの方針なるよし既に明言したる  
所なれば航美獎勵のふども或は同一の運命を免れざる

我邦の美術及美術工藝品は字内に於て獨得の巧妙  
し有益の輸出貿易品たらしむべきにも拘らず其淵  
養の機關とも云ふべき東京美術學校は規模本大數  
して教育方法苟未だ盡さる者多く各種美術に於  
ては既に已衰の系統を維持繼續するのみに汲々とし肝  
心の美術發達の點に於て大に缺陥する所あり故に速  
れか擴張を計り今之高等學科に併せて普遍の各科

總會社に談合込みたり其結果  
近の十二紡績會社は取り敢  
種々協議の末銀行に關切す  
より未だ公然たる照會を得  
否を評議するの必要なしと  
各社に於て火災保険を付す  
協議したるに出席者一名の男  
で保險の手續を定めんと迄  
を少數の出席者にて決するは  
て来る廿五日午後二時(明治

時事新報社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を構成するより各社同一の記事を掲ぐるが事実からうり時事新報社は社員達に通信員の多さを以て斯類の間に通信を取扱はずと雖も間往々此事を知らすして本社に於ける報道すれば本社にも其報道は達する事をある方多きが爲めに行違ひを生じたる場合等異なれば本社に記事論説を寄稿せんとする方は直接本社に向け發送あらんことを請ふ

可しと云ふ者あり蓋し軍國の大事の決せざる内は百般の費途を略して萬一に備ふるの大切なるは我輩も之を知らざるに非ざれども今回之戰争たる我日本が宇内に雄飛するの第一步にして現に新大國となりつゝあるとなれば是れより通商貿易界に於て進んで其實を收めざる可らずとは我國民の覺悟にして其急務たるは戰爭の收局如何に圖らざるのみならず之を戰争の目的の一に數ふるも亦敢て不可なかる可し若しも尋常一樣の計畫なりとせば併合ひ進歩的事業にせよ延引論者の所説尤もなれども通商貿易の急は争ふ可ざる事にして其

具備並進せしも時勢に必需に適應すべき甚多の美を養成し以て國家の富源を開かんとを望む是れを提出する所以なり

○ 東京市會 は一昨日午後五時より開會し深太隊區徵兵委員一名の補欠選舉を行ひたるに岡三氏當選せり夫より議長は本會選出市區改正委員の補欠選舉を執行すべしと宣告せしに横山富次郎議に本會は市區改正委員不信任の決議をなしたるに於ける五名即ち全體の委員（市會より選出せら市區正委員十名を云ふ）辭任するまで選舉を延期すべしの動議を提出せしに多數の賛成ありて延期に決定

# 航海事業に關する 建議の通過

第一回は楊先生會長が海島國法案を議會に提出したるのと  
並んで今日比<sup>シ</sup>くは時事に關みてます。其議案を詰め  
て、議案の改定をして之を改めて以て本日議會の協  
議を受ける所となりました。議案は未だ提出の議案が主  
として自由黨化で成る議案を全部撤回。草創黨にては議院の  
擴張、船舶の保護等の議案の養成に関する議案又議員  
より直接議院に付託する議案等のもの、是れを以て  
衆院は右ののを認めて特別審査會に附託し委員會

種の事業を見合せつゝある場合に於て獨り算海賊の爲めに新費を投すればとて他より決して之を嫌むひとなきは我輩の確信する所のみか其金額とても一時に巨多と要するには非ずして當分は百萬圓以上三百萬圓未満なる可との事なれば之が爲めに敢て軍艦の計に妨げとなる可きにあらず假りに一步を譲りて來期議會を持つとせんか其來場議會は矢張り本期の如く平穏にし得無事に豫算案を可決するやせざるや容易に先見す可

記官ドナンは薦義保正御内侍公使に、太使館參事官ブリト氏はモンテザグロ駐箇辦事公使に執務任せとなりと云。

五萬圓の契約を爲すに決し  
六千圓餘なりと云ふ  
○賣店敷地割當並賣店  
物業博覽會事務局に於ては  
設心得と左の通り定め而よ  
相當を爲したたりと云ふ  
第一條 賣店敷地割當並賣店第一條  
賣店を有する者貨物販賣する者